

## 「学校教育の創造ある復興」

第5回仙台市中学校長会総会 挨拶

会長 高橋 泰

これから10年間か20年間か、あるいは何十年間になるのか、仙台市はもとより宮城県のこと、あるいは岩手県や福島県のことを話題にするとき、23.3.11を抜きにしては語れないような状況が続いています。

「未曾有の」とか「想像を絶する」などという冠を付けざるを得ない大震災でした。

児童生徒の中に死者や負傷者が出ました。

校舎や体育館等の施設に使用不可能の状態になるほどの被害が出て、近隣の小学校や市民センター等で新学期の授業を開始せざるを得ない学校が出てきました。

卒業式や新学期の始業式や入学式を延期せざるを得なくなり、さらには、各学校の被災状況によって、実施期日も異なることになりました。

新学期の修学旅行や野外活動の計画を変更せざるを得なくなりました。

中総体等の生徒が楽しみにしている行事にも影響が出てくるような状況になりました。

給食センター等にも被害が出て、学校給食の再開も待たれる状況になっています。

学校は被災を受けた方々の避難所となり、教職員は徹夜でその運営に携わりました。

自ら負傷をしたり、家族や親戚、自宅や自家用車等を失ったりした教職員がたくさん出ました。

一方、自らの勤務先が避難所となった中学校では、避難者のために、教職員が献身的に働く姿が高く評価されました。

併せて、避難者や地域の被災者のために自らボランティア活動を始めた生徒たちがいくつもの中学校で見られました。

避難所となった中学校には、神戸市役所をはじめ、新潟市やその他の都市の行政マンの方々が駆けつけていただき、ボランティアとして夜を徹して働いていただきました。

地域によっては、町内会等との連携がうまく機能して、避難所運営がスムーズに運んだ中学校もありました。

このような状況の中、神戸市、京都市、札幌市の中学校長会から仙台市中学校長会宛に、そして、全国各地の中学校長会から宮城県中学校長会宛に多額の義援金(仙台市には現時点で200万円を超える金額)が届けられています。

しかしながら、結果的に、避難所運営のほとんどは学校の教職員が担当し、それを市教委の方々は「教職員の献身的な貢献」と評価し、まさに「地域とともに歩む学校づくり」の象徴だと賞賛してくれていますが、それを喜んではいけなさと考えています。

そして、今後は仙台市や各区役所の防災体制や避難所開設に関しての考え方、あるいは避難所開設に向けての準備不足を指摘・確認していくことが必要ではないかと考えています。

さらに、学校を避難所として想定していた場合、災害対策本部の方々は、県費職員としての教員の勤務態勢や手当等の課題をどのように認識していたのかと考えるとき、全く想定していなかったのではないかととも思われ、この問題も明確にしていかなければならない課題であると考えています。

教職員の本来の業務は、「児童生徒の指導と安全確保」であり、「避難所業務ではない」はずであり、「地域とともに歩む学校づくり」の本来の意味も、「校長が村長になって奮闘することではないのだろうと考えることができ、避難所運営に当たっても、町内会等との連絡・調整は、学校が主体となって行うべきものではなく、行政側が主体となるべきものであったとも考えています。

大震災から2ヵ月余り経過し、市内の全ての学校では新学期のスタートを切ることができたものの、この大震災からの復興—市教委の言葉を借りれば「創造ある復興」「地域とともに立ち上がる学校」には、まだまだ時間がかかり、いつになったら会員の勤務する中学校65校が正常な学校運営に戻るのかの見通しも立たない状況でございます。

このような状況の中、本日は、ご多用中のところ、仙台市教育員会 教育長 青沼一民 様をはじめ、市教委の幹部の方々、そして関係機関の方々、さらには、歴代会長の大先輩の皆様方のご臨席を賜り、第5回仙台市中学校長会総会を開催することができまして、主催者として

心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

昨年度末に8名の会員が退職、あるいは行政への異動ということでお別れし、新年度は7名の新会員と1名の再入会員をお迎えしておりますが、このような状況でありますことから、歓送迎会はまだ開催できておりません。

いずれ、社会全体、学校全体が落ち着いた様子を見せた頃に、退会会員の方々へのこれまでの御礼の気持ちを表すとともに、新会員と再入会員の皆さんへの歓迎の気持ちを込めた「歓送迎会」を盛大に開催したいとは考えているところです。

さて、私は、このような特別な状況ということで、昨年を引き続き会長職を引き受けてしまいましたが、昨年度の総会において、こんなことを申し上げました。

これまでの学校教育の姿勢を謙虚に振り返るとき、どちらかと言えば、「受身の学校教育」、「文部科学省や教育委員会からの指示や命令を受けてから動く学校教育」だったと反省せざるを得ません。

これからは、全日本中学校長会が全日中教育ビジョンとして提言している『学校からの教育改革』を視野に入れて、現場からの教育改革を実践していかなければいけないと考えています。

そもそも、校長会のメンバーの一員として、新会員もベテラン会員も全員が「校長としての力量」を持ち合わせて、確固たるリーダーシップを発揮して学校経営に当たらなくては行けません。この力量アップの観点から、校長同士の情報交換や協議が自由・活発にできるような時間を確保するようにしたいと考えています。

そして、今年度は、「会務分掌による与えられた業務をこなす」発想から脱却し、新しい課題の掘り起こしとその解決のための方策の協議・実践の場として、例会や研修会の意義をとらえ直したいと考えています。

そして、仙台市中学校長会として、平成22年度に取り組んだことの中から主なものを振り返っておきたいと思えます。

宮城県・東北中学校長会等との関係について、

① 「宮城県・仙台市中学校長会研究協議会」については、平成25年度まで共同開催することにし、その後は、独自の研究協議会を開催することに両方で同意をいたしました。

② 東北地区中学校長会研究協議会への参加体制については、本県での開催の場合は全員参加とし、他県での開催の場合には、2分の1の参加ということにしております。

なお、平成25年度開催予定の東北大会宮城大会（松島町開催予定）、及び、28年度開催予定の全日中宮城大会（仙台市開催予定）には、主管する宮城県中学校長会に全面的に協力することにしております。

さらに、東北大会宮城大会の諸費用・事務局費（県と負担し合う）のために、23年度から「東北大会準備基金」を各会員から、年額3,000円を集めることとしておりますので、新会員の皆さんにもご理解とご協力をお願いいたします。この準備基金の徴収を行財政部にお願ひしますが、その徴収時期については、ボーナス等の後というふうに考えているところです。

③ 大都市中学校長会研究協議会の仙台市開催につきましては、22年度の会長会において、再度、28年度は全日中宮城大会（仙台市開催予定）が予定されておりことから29年度に仙台市で開催したい旨を申し出て、最終決定は23年度になる見通しがつきました。

その他関係機関等との関係について、

① 県中教研に関わる諸課題については、23年度内の決着を目指し、22年度から県中学校長会、県・市小学校長会、県・市小教研との協議を始めています。

② 県中体連に関わる諸課題については、一層の整理・解決を図るべく、県中学校長会、県中体連との協議を継続して重ねています。

③ 中高（公私）連絡会の持ち方については、教育課題部で集約した「私立高校入試に関するアンケート結果」を私立高校側に提供・説明する場を設定するなどの改善を図りました。

④ 仙台市小学校長会と共同で実施している「市教委への学校教育の充実に向けての提案」において、特に、行財政部が地域連携費についての実態把握を行い、その結果を「地域連携費の増額」について要望につなげ、最終的に、市教委によって支出基準の見直しを図られたという成果も上げています。

本校長会の主な取り組みについて、

① 研究部では、東北地区中学校長会研究協議会岩手（花巻）大会や県大会で、膨大な資料を添え、「教師力の向上を目指した研修の充実」というテーマで、研究発表を行い、高い評価を得ました。

- ② 教育課題部では、「私立高校入試に関するアンケート」の外に「修学旅行や校外学習についての実態調査」を行い、各学校・各校長の実態や意識を把握するとともに、校長の学校運営の参考資料として活用されました。
- ③ 研修部では、研究部と連携し、校長会における研修において、グループ研修を取り入れたり、危機管理や法規演習を設定したりするなどの改善を図り、校長の力量アップにつながることができました。
- ④ 情報部では、校長会のウェブページの改善だけでなく、校長会会員の全員にメールアドレスの取得を斡旋し、各部会の調査事項をメールで集約するなどの情報化の飛躍的な推進を図ることができました。メールのできない校長はゼロになっています。
- ⑤ 行財政部では、前述のとおり、地域連携費についての実態把握と市教委への増額の要望等の成果を上げました。
- ⑥ 生徒指導部では、小学校校長会生徒指導部会との連携により、長年の懸案であった校外指導連盟の区割りの見直し（第1部～第7部→青葉区、宮若区、太白区、泉区）と中学校生徒指導主事連絡協議会の区割りの見直し（東部、西部、南部→青葉区、宮若区、太白区、泉区）を行い、23年度から機能するように規約等の改正の準備を行いました。  
さらに、生徒指導部内に、特別支援教育を担当することを再確認しています。
- ⑦ 総務部には、各種会合の準備・運営等に尽力していただいた外に、22年度は特に、県市中学校長会連絡協議会の幹事役として、中教研の組織についての課題解決のために県中学校長会、県・市小学校長会等との調整役として、動いていただきました。
- ⑧ 市中学校長会として、公務員賠償責任保険に加入しました。

次に、23年度の取り組むべき課題について申し上げたいと思います。

大方は昨年度に取り組んだことについてのさらなる充実ということになりますが、今年度は、冒頭に申し上げた言葉を借りれば、「学校教育の創造ある復興」という一語に尽きると考えております。

4月7日の臨時中校長会で、私は、各校長先生方に「東日本大震災に係る緊急アンケート」を実施いたしました。このアンケートの調査項目は、次のような内容でした。

- (1) 学校の施設設備の被害状況と対応策
- (2) 修学旅行・野外活動への対応
- (3) 京都市等中学校長会からの義援金の使途についての意見
- (4) 今回の大震災に関して、市教委・中体連・中教研・校長会等への要望事項等

これらの中で、特に、(4)の項目を中心にして、中学校長会として、教育課題部や人事部などが分担して、課題や意見を集約し、その解決を図っていくことが23年度の取り組むべき課題であると考えています。

具体的には、次のような課題があると考えています。

- (1) 仙台市や各区役所の防災体制や避難所運営に対する意見の集約・発信
  - ① 学校を避難所とすべきかどうかの整理  
(市民センターや区の体育館等の公所を確保すべきではなかったのか)
  - ② 万が一、学校を避難所とした場合の行政側と学校側の業務の明確化
    - ア 責任者の明確化
    - イ 避難所運営に関して区役所担当者や町内会等との連絡調整
    - ウ 学校施設の管理と避難所の管理の課題の整理
    - エ 市費職員と県費職員の特殊業務手当や勤務時間の関係の課題の整理
    - オ 各区役所の災害対策本部によって対応の在り方等の課題の整理
    - カ 公共交通機関が停止した場合やJR駅・ホテル等の旅行者の避難所の在り方の整理
- (2) 未曾有の非常時における学校運営の工夫例の集約・発信
  - ① 体育館以外で実施した卒業式・入学式等の工夫
  - ② 自校以外、教室以外の場所で実施する授業の工夫
  - ③ 計画していた修学旅行や野外活動の変更例
  - ④ 生徒にいる災害復興ボランティアの活動例
  - ⑤ 生徒の心のケアについての実践例
  - ⑥ その他

最後になりましたが、これまで申し上げました「東日本大震災からの創造ある復興」と様々な改革の推進に当たりましては、市教委、関係諸機関、そして、歴代会長の皆様方からの指導助言が不可欠だとも考えておりますので、これまで以上に、本中学校長会にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。開会に当たってのご挨拶といたします。

本日はありがとうございました。